

博報財団 第13回「博報日本研究フェローシップ」成果報告書

I. 研究成果概要

氏名(フリガナ)	OZBEK Aydin (オズベッキ アイドウン)
在住国名	トルコ
所属・役職	チャナツカレ・オンセキズ・マルト大学 日本語教育学科 准教授
招聘回(招聘研究期間)	第13回 (2018年9月1日～2019年8月31日)
受入機関	東京外国語大学
招聘研究テーマ	日本語とトルコ語におけるテンス・アスペクトの諸相及び証拠性・ミラティビティ現象の対照研究
研究目的	本研究では、日本語のテンス・アスペクト・証拠性及びミラティビティの構文、意味・機能を分析・記述し、さらに、トルコ語の時間的表現の構文と比較し、それぞれの類似点・相違点を明らかにすることを目的とする。特にアスペクトの項目や、教科書に載っていない項目(証拠性とミラティビティ)、教える順番などを改善できると考えられる。
研究成果概要	
<p>1. どのように研究を進めたか(具体的に)</p> <ol style="list-style-type: none"> 日本語の証拠性そしてミラティビティに関する先行研究や文献を収集し、トルコ語のデータと対照した。 日本国内で同類の研究を行っている研究者と直接会って議論する機会が得られた。 トルコ国内の日本語学習者を対象にアンケート調査を行なった。 日本国内に2年以上滞在しているトルコ人を対象にアンケート調査を行なった。 	
<p>2. 研究によりどのような知見が得られたか(具体的に)</p> <p>世界中の言語にわたる Mirative 的な意味の範囲は、突然の発見、驚き、そして話し手に対する心の準備ができていないことの意味を指す(また言語によって、聞き手または主人公も)。Mirative マーカーは予想外の事態又は新情報に対する感嘆的な高い声、感嘆詞などを含む場合もある(Aikhenvald 2012)。主な機能が情報源を明確にする Evidential 表現と似通っている部分があり、特に一人称主語の場合はこれらの構文に Mirative 解釈が可能である。Mirative 表現は動詞接辞、複合述語、または代名詞を通して表現されることがあるが本研究では主に主に膠着語であるトルコ語と日本語の Mirative 表現について述語動詞を中心とし、対照しながら考察を行った。</p> <p>例えば、発見、驚き、不意、知識修正そして新情報の 5 つ用法の内2つの用法のみを持つ言語そしてそれぞれの用法に値する独自のマーカーを用いる言語もあれば、Lisu 語のように4つの用法それぞれを表す4つの独立したマーカーを持つ言語もあると述べられている。その意味ではトルコ語は一つの $-m_1s$ 接辞を用いる一方で驚きそして心の準備ができていない出来事に対する形式もほとんど同じである。これらを見分けるために構文の前後文脈または感嘆表現があればその感嘆詞の意味を考慮に入れる必要がある。</p> <p>本研究ではトルコ語における mirativity 現象を Aikhenvald が提唱した分類に基づいて主に $-m_1s$ を中心に検証し、日本語と対照しながら考察を行った。時制やアスペクトと切り離れ、Evidentiality とも似通っている部分があるとはいえ両言語において Mirativity は Modality の下位分類であることが分かった。トルコ語も日本語も Modality は1人称あるいは話し手のみの感情や気持ちを表しているため Aikhenvald の表においては本研究で調べた限り全ての用法は by the speaker 話し手に値していると言えよう。</p> <p>なお、日本語では Mirativity を表す接辞は のだ、んだ、てしまう、チャウ、ているのような様々な形式を持っている一方でトルコ語の場合は主に m_1s- が用いられていることが分かった</p>	

一年間の滞在中は、テンス・アスペクトのみならず主にミラティビティ現象を中心に研究を行なった。特に日本語教育文法の現状を把握し、アスペクトの関連研究を踏まえ、トルコそしてチュルク諸語諸国における日本語教育現場への新たな教授法を提唱することができた。具体的には、「タ形」の非過去を表すいわゆるミラティブ的用法と「んだ」「てしまった」などのようなモダリティーマーカ-のミラティブ的用法を分析し、トルコ語との相違点に着目し、以下の研究成果を挙げた。

3. 研究成果(予定を含む)

○論文(題目, 掲載誌, 発行者, 掲載月, 内容の概略(200字以内))

・Ozbek Aydin, Kira Esra 2018、12月「日本語とトルコ語における述語の時間的限定性について」日本諸研究 vol.4 JDI series V. Transnational Press London. Pp.89-101

・Ozbek Aydin, Kira Esra 2019 A STUDY OF MIRATIVITY IN JAPANESE AND TURKISH (Deu Journal of Humanities on press)

Ozbek Aydin Modern Japoncada Zaman Görünüş ve Kip Kavramlarına Giriş 現代日本語におけるテンス・アスペクト・モダリティ 入門 2019年10月/11月出版予定

○口頭発表(題目, イベントの名称, 日・場所, 内容の概略(200字以内))

・Ozbek Aydin 2019「非人称受動構文における時間的限定に関する一考察 -日本語とトルコ語の対照分析-」チュルク諸語における膠着性の諸相 -音韻・形態統語・意味の統合的研究-」2018年度第2回研究会 東京

・Ozbek Aydin 2019トルコ語と日本語におけるミラティビティ現象についての一考察
チュルク諸語における膠着性の諸相-音韻・形態統語・意味の統合的研究-」九州大学

・Ozbek Aydin 2019 トルコ語と日本語におけるミラティビティ現象-日本語教育の現場から探る
日本語-日本語教育学会 アンカラ大学

4. 今後の活動予定

帰国後は、上記の2に述べた、この一年間得た知見を以下のことに応用する予定である。

「文法教育の改善」の具体化

大学院での授業、修士課程での論文指導

チュルク諸語における日本語教育文法の概念の普及、教科書作成プロジェクトの申請